教育目標　わたしから考える子　にこにこ元気な子　つづけてがんばる子　こころを合わせる子

創立150年

# わにっこり

和邇小だより 令和６年 ３月号

児童数３９８名　文責 澤村幸夫

## 「リアル」×「デジタル」の最適な組み合わせ

比良山系を背に、校庭の桜のつぼみが春を待っています。春に咲く桜のつぼみは、前年の夏にできます。つぼみのもとである「花芽」（はなめ）は夏までに形成され、秋にはいったん「休眠」します。この「花芽」が眠りから覚め、開花に向けて本格的に成長を始めるには、冬の寒さにさらさなければなりません。庭の鉢にいるメダカが冷たい鉢底でじっと我慢をして、水温が上がる春に多くの卵を産みつけるのと似ています。

生成 AI の進展が、世界中の話題となっています。論文はおろか、創造的な画像、さらに動画まで、いくつかの条件を入力するだけで創り上げる時代になってきました。10年前には想像もしなかった出来事です。AI 技術の開発・向上のため、多くの研究者が数十年も前から「脳科学」の分野に多くの時間を費やし、今日的な成果を創り上げてきました。

学校教育の分野では、一人一台タブレットが整備され、授業における効果的な活用方法を日々模索する毎日です。単に、タブレットを使うことが目的ではなく、どのように活用するとこれまでできなかった効果的な学習ができるのか、子どもにつけたい力とは何なのかを問い直さなければいけません。これからの AI 技術の進化した時代を生きる子どもたちには、未来を予測することが難しい世の中だからこそ、自分の人生を豊かに、幸せに切り拓いていく力（子どものウェルビーイング）を身に付けていく必要があります。学校は子どもたちが将来の夢や職業に適応できるよう、これまでの伝統や文化を踏まえつつ、主体的に課題を見つけ、他者と協働しながら学び、社会をより良く変えていく実感を持つ場所でなければいけません。

創立150周年という節目の年に、想いを巡らせたことがあります。明治5年（1872年）に公布された学制に始まった近代学校制度から約75年を経ることにより、昭和22年（1947年）に現代学校制度の根幹を定める学校教育法が制定されることになりました。今また、それから令和6年（2024年）まで約75年の月日が経とうとしています。この150年間、日本の教育は大きな成果を上げ、多くのノウハウを積み上げてきました。この節目の時期に、これまでの成果と課題を正しく評価しつつ、新しい時代にふさわしい学校の在り方を追求し、新しい学校文化を創り上げていく必要があります。明らかに教育の転換期と言えると思います。社会の変化に受け身で対処するのではなく、主体的に向き合っていくこと、あらかじめ解き方が定まった問題を効率的に解く力だけでなく、自ら課題を見つけ、主体的に判断し、他者と協働しながら新たな価値を生み出していくことが求められています。今こそ「リアル」な実体験を重視し、本物に触れる機会を確保しつつ、「デジタル」の良さを最大限に活用する教育計画が必須です。多様な価値観に触れ、地域の絆を深め、共生社会を実現するために、学校と家庭と地域がそれぞれの役割を自覚して、かけがえのない子どもたち（私たちの宝）のために連携・協働して参りたいと思います。

和邇小学校のホームページ

**和邇小学校のホームページをご覧ください。子どもたちの様子を掲載しています。**

学校だより「わにっこり」のカラー版は、和邇小学校のホームページから「学校便り」をクリックしてください。

# 4年　信楽校外学習　2/2

4年生は、滋賀県の伝統工芸品や観光名所を学ぶために、信楽方面に校外学習に出かけました。

宗陶苑では、陶芸を実体験させてもらい、一人一つの陶器を制作しました。また、現地で登り窯の説明を受けながら見学しました。午後は滋賀県立陶芸の森に移動し、産業展示館の見学や太陽の広場での探検を行いました。信楽焼を体験し、世界で一つだけの作品づくりをする中で、伝統工芸品の素晴らしさに触れる良い機会となりました。短い動画にまとめましたので、左の QR コードからご覧ください。

**４年　校外学習**

紙面配布のみ表示

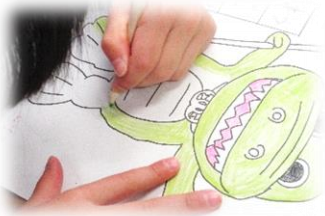
**期間限定 3/1～3/31**

# 6年　防災イベント 2/21,22

6年生は、1年間にわたり取り組んできた防災学習の総まとめとして、自分たちの学びを全校児童に伝えようと「防災イベント」を開催しました。15か所のブースに分かれ、ブースごとにテーマを伝え、クイズあり、製作体験あり、ビデオやスライドありで行いました。下学年に分かりやすく伝えるための工夫をしっかり考えていました。

# 5年　新入生体験入学　2/8

2月8日（木）に、新入生対象の1日体験入学を実施しました。来年度、最上級生になる5年生の子どもたちが、新入学を迎える園児さんたちに、やさしく丁寧に小学校生活を紹介していました。小学校生活に期待と不安でいっぱいの園児さんに寄り添う5年生のやさしい眼差しが印象的でした。



# わにっこギャラリー　アンケートより

２月7日から28日まで展示されていた「わにっこギャラリー」で、ご観覧いただいた皆様からご感想を多数いただきましたので、その一部を紹介いたします。

◇今年も、子どもたちの想いがたくさん詰まった作品に出会えて感謝しております。我が子の成長も見ることができうれしいです。

◇いつも楽しみにしています。お花学級の宝箱はとても見ごたえがあり、楽しく拝見しました。宝箱からあふれ出るみなさんの創意工夫に元気をいただきました。大きなひまわりも協同作品との説明があり、作品ができるまでの様子がよく分かりました。これからも応援しています。

◇習字は達筆で、一人一人の個性があってすばらしいなと思いました。かえるとうさぎの絵も立体感やペンの使い方が細かく良かったです。色紙の重ね方も明るくて素敵でした。

◇とても素敵な作品ばかりで、子供の頃を思い出し、なつかしくなりました。とてもかわいかった！

◇なかなか小学校まで見にいけないので、平和堂で見られるのはうれしいです。

# シリーズ　子どものWell-being（ウェルビーイング）　第12弾　「好奇心を育む」

学校のカージナルテトラ
本文との関連はありません。

Well-being とは、心身ともに満たされた状態を表すもので、「幸福」とも訳されます。多くの研究者が、脳の健康を「ウェルビーイング」になぞらえて、脳の発達と加齢という分野で研究を進められていて、認知症予防にも役立てられています。小さな子どもから高齢者までを対象に脳の解析が行われ、その最新研究の中で見えてきた「子どもの可能性を伸ばすカギ」が今、注目を浴びています。

脳は後ろから前に向かって発達し、逆に脳の加齢は前から後ろに進むと言われています。生まれたての赤ちゃんはものを見る機能をもつ「後頭葉」が発達します。同じころに、音を聞く力に関わる「側頭葉」も発達します。その次に、触感や体の動きをつかさどる「頭頂葉」が発達します。そして、最後に発達するのが「前頭葉」です。ものを考えたり、判断したり、コミュニケーションをとったりする高度な認知機能を担っています。一方、加齢が進むと、認知機能が低下し、若い頃のように体が思うように動かせず、耳が聞えにくくなったり、字が見えにくくなったりします。この脳が成長する順序を知ることで、子どもの才能を伸ばしたり、逆に認知症予防や運動機能を維持したりすることができると考えられています。

子どもの持っている力を最大限に伸ばすために、効果的な時期があるとしたら、いったいいつごろでしょうか。視覚や聴覚が発達する0歳からは、図鑑や絵本、音楽に触れさせ始めるのに適していると言えます。運動機能が発達のピークを迎える3～5歳ごろは、スポーツや音楽を始めるのによい時期だと思います。スポーツ選手や音楽家が「3歳ごろから始めました」というコメントがあるのは納得がいきます。一方英語などの第二言語の習得は8～10歳ごろに始めるのが効果的であるとされています。小学校で外国語活動が3年生（9歳）から、外国語科が5年生（11歳）から始まるのも理にかなっていると思います。

では、その時期を逃してしまうと、良くないのでしょうか。専門家によると、脳には自らを変化させる力があるそうです。子どもにも大人にも共通する性質で、年齢を重ねてもその力は保たれるそうです。つまり、高齢になっても学べば脳は成長するということです。私の脳も学べば成長するのです。人生、勉強の連続です。

さて、幼いころからその分野にたくさん触れることで、知的好奇心や興味関心が育ちやすいということですが、大きな落とし穴があると思います。子どもに対して過度な期待をかけたり、睡眠時間、親子の会話時間、体を動かす時間が削られたりするのは良くありません。特に睡眠時間を確保することの重要性は、「わにっこり9月号」で述べたとおりです。十分な睡眠や遊び、親子の時間などを確保した上で、本人が好きであれば、習い事も良いと思います。

幼いころから図鑑などを使って子どもの「知的好奇心を育む」と、「子どもの可能性を伸ばせる、つまりウェルビーイングな生活を送ることができる」ことになります。好奇心があることでより専門的な知識を獲得したくなります。脳は何かを突き詰めれば突き詰めるほど変化を繰り返し、他の分野についても脳を成長しやすくしていきます。つまり、好奇心が強い人ほど、脳が成長し、高齢になったときの脳の萎縮スピードが遅くなり、考えたり、判断したりする認知機能が高く保たれることになります。子どものウェルビーイングを考える上で、子どもの知的好奇心を育ててあげることが重要ですが、それが習い事である必要はありません。我が家の場合は、自然に触れることを大切にしてきました。家の周囲には、身近に自然を感じられる場所はたくさんあります。

私自身も幼い頃から魚取りや虫取りが好きで、子どもが幼少のころはカブトムシを飼育していました。図鑑で見たカブトムシを森で探すことで、バーチャル（図鑑）の情報とリアル（現実世界）の体験が結びつきます。子どもの好奇心を刺激してあげると、「知ること」が純粋に楽しくなって子どもの力も伸びていくと思います。

**クラブ活動ダイジェスト**

紙面配布のみ表示

**期間限定 3/1～3/31**

４年～６年のクラブ活動を短い動画にまとめました。左の QR コードからご覧ください。